

[計画名称]佐賀市排水対策基本計画

【佐賀県佐賀市】

流域の概要

●佐賀市の平野部では、近年頻発する集中豪雨により、平成20年6月、平成21年7月、平成24年7月と市街地を中心に大規模な浸水被害が発生、床上・床下浸水被害は500戸を上回る

●浸水は広範囲かつ長時間に亘るため、道路冠水による通行止めや鉄道運休など交通機関の乱れにより、都市機能が低下、また、トイレが使えなくなるなど市民生活に支障をきたしている。このため、排水対策による浸水時間の短縮は喫緊の課題である

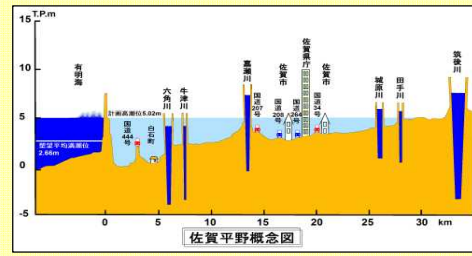
年月	床上	床下
H20年6月	24	484
H21年7月	11	591
H24年7月	9	489



●100mm/h安心プランで対象となる降雨 平成24年7月13日 最大91 mm/h

浸水被害の主な要因

- 市街地は洪水時の河川水位や有明海の高潮時の潮位よりも低い低平地であるため、河川への自然排水が困難
 - ・勾配が緩い地形のため、排水に時間がかかる
 - ・潮位によって、河川の排水が進まない時間帯がある
- 総延長約1600kmに及ぶ水路網に樋門や樋管が多数存在するため、洪水時など相互間での調整が必要
- 豪雨時期は灌漑期と重なり、普段から用排水を兼用した水路の水位が高く保たれているため、排水に時間がかかる



佐賀市の総合的な治水対策について、行政・流域の自治体からなる「佐賀市内浸水軽減対策協議会」で、検討、対策、事業進捗・効果の確認を実施

佐賀市内浸水軽減対策協議会

組織	部局
国関係	筑後川河川事務所
県関係	河川砂防課、農地整備課、佐賀土木事務所、佐賀中部農林事務所
市関係	総務部、農林水産部、建設部

取組内容

- 計画期間 H26年度～平成31年度
- 河川事業
 - ・河川改修、放水路整備等
- 下水道事業
 - ・雨水幹線、ポンプの整備等
- 施設
 - ・既存施設(水門・ポンプ)の操作連携(試行中)
- 流域対策
 - ・お濠貯留、農業用排水路(クレーク)貯留
- 危険情報周知、水防活動等
 - ・浸水標尺の設置・活用、防災情報(知識)の提供、土のうの提供
 - ・市民が主体となった河川清掃活動等(佐賀市水対策市民会議)

ポイント1
既存施設の操作連携により、佐賀江川の水位を下げる
河川・下水道の整備を図る
佐賀市街地の浸水時間を短縮させる



ポイント2
想定以上の豪雨に対しては、流域貯留対策により被害軽減を図る



ポイント3
行政と市民が一体となって排水機能の維持・向上を図る

取組効果

行政と市民が一体となって浸水対策を実施することにより、対象とする降雨と同規模の降雨に対し、市街地の浸水時間の短縮を図ることで、市民生活への影響を最小限にする。

下水道事業の概要

尼寺雨水幹線	水路工 L=2.3km
尼寺調整池	2箇所 V=4.3万m ³
尼寺雨水ポンプ場	Q=6m ³ /s(新設)
新村愛敬雨水幹線	水路工(狭窄部改修)
十間堀川雨水幹線	水路工 L=1.5km (基本計画の中長期対策)
石塚雨水ポンプ場	Q=4m ³ /s(新設)
諸富中央雨水幹線	水路工(狭窄部改修)
厘外雨水ポンプ場	Q=2m ³ /s(新設)

河川事業の概要

黒川	河道拡幅 L=2.3km
三間川	河道拡幅 L=0.8km 放水路 L=1.3km
城東川	河道拡幅 L=1.1km
本庄江	河道拡幅 L=6.0km
地蔵川	河道拡幅 L=0.6km

操作連携(試行中)

大井手堰
枝吉水門
尾の島水門
蒲田津水門

流域対策の概要

お濠貯留	ゲート設置V=3.4万m ³
農業用排水路(クレーク)貯留	徳永線・南里線・城西線

<凡例>

- 河川(国)
- 河川(県)
- 事業済河川
- 事業河川
- 下水道
- 貯留施設
- 市街地
- 浸水域(H24)